

栃木県及び周辺の地震活動（令和 7 年 9 月）

【地震活動概況】

今期間に県内で観測した最大震度は 4 でした。期間内に県内で震度 1 以上を観測した地震は 9 回（前月 11 回）、震度 3 以上を観測した地震が 1 回（前月 1 回）ありました。

【栃木県及び周辺の地震活動】

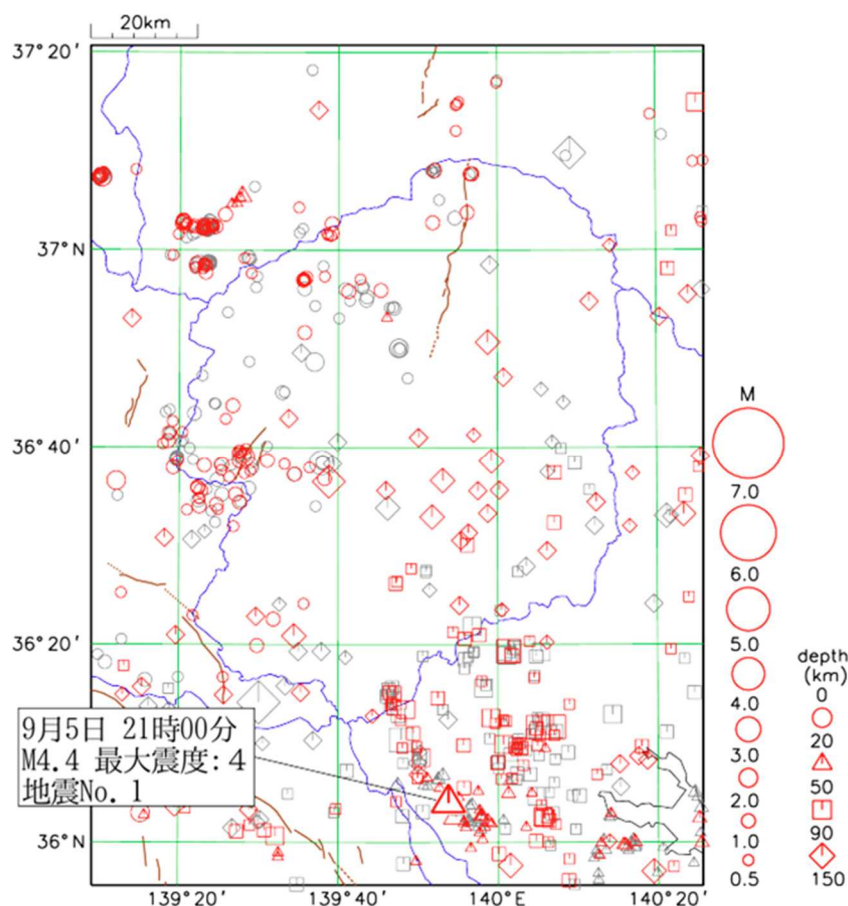


図 1 震央分布図（2025 年 8 月 1 日～2025 年 9 月 30 日）

- ・今期間の地震活動を赤色で、前月の地震活動を灰色で示しています。
- ・図中の吹き出しを付けた地震は、県内震度観測点で震度 3 以上を観測した地震及び県内を震源とする震度 1 以上を観測した地震です。地震 No. は県内で震度 1 以上を観測した地震のリストに対応しています。
- ・M はマグニチュードで 0.5 以上、深さ（depth）は 150km までの地震を示しています。
- ・図中の茶色線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示しています。

本資料は国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。※データについては精査により、後日修正することがある。また、本資料中で使用している地図は、『数値地図 25000（行政界・海岸線）』（国土地理院）を加工して作成した。

【9月に県内で震度1以上を観測した地震のリスト】

地震 No.	発震時		震央地名	北緯	東経	深さ (km)	マグニ チュード [*]	国内最 大震度	県内最 大震度
	月日	時分							
1	9月5日	21時00分	茨城県南部	36° 04.0'	139° 53.7'	46	4.4	4	4
2	9月9日	8時53分	千葉県南部	35° 26.6'	139° 58.4'	72	4.1	2	1
3	9月10日	16時30分	茨城県南部	36° 02.5'	139° 54.7'	44	3.5	2	2
4	9月11日	14時12分	茨城県南部	36° 19.3'	140° 01.4'	73	3.5	2	2
5	9月12日	3時18分	茨城県南部	36° 11.6'	140° 06.9'	51	3.1	1	1
6	9月15日	6時41分	茨城県南部	36° 11.6'	140° 05.0'	67	3.0	1	1
7	9月20日	3時02分	茨城県沖	36° 13.3'	141° 02.1'	39	4.3	2	1
8	9月22日	2時14分	茨城県沖	36° 36.1'	140° 58.0'	47	3.8	2	1
9	9月23日	18時46分	茨城県沖	36° 31.5'	140° 41.7'	54	4.1	2	1

・各地震の震度1以上を観測した観測地点名については、気象庁HP「震度データベース検索」により確認できます。

<https://www.data.jma.go.jp/eqdb/data/shindo/index.html>

【震央分布図範囲内の地震】

1. 茨城県南部（地震No. 1）

5日21時00分に茨城県南部で発生した地震（深さ46km、M4.4）により、栃木県で震度4を観測したほか、福島県、関東地方、山梨県、および静岡県で震度3から1を観測しました。栃木県では下野市で震度4を、7市町で震度3を、17市町で震度2から1を観測しました（図2）。

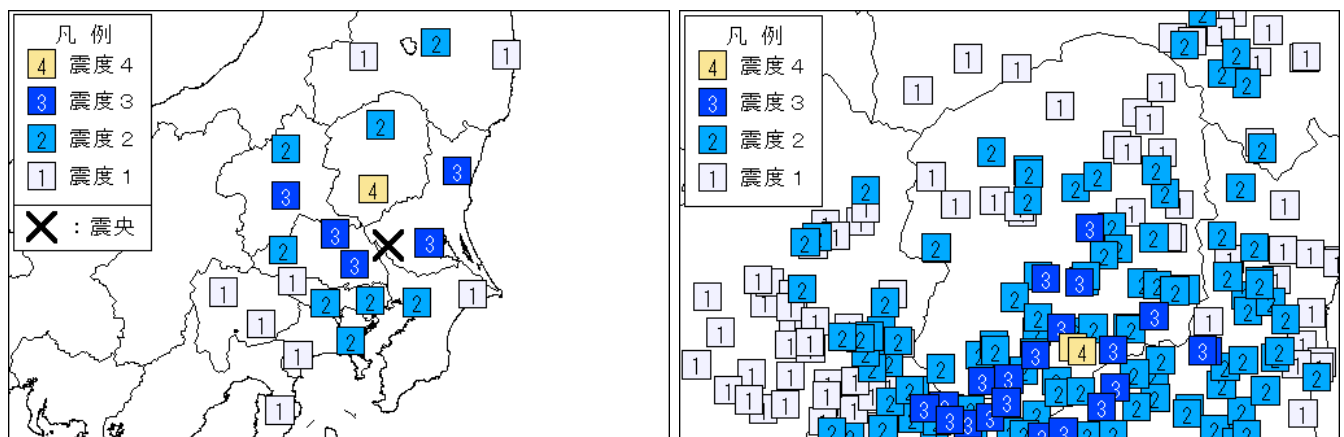


図2 5日21時00分 茨城県南部の地震 左図：地域震度 右図：地点震度

【震央分布図範囲外の地震】

今期間中、県内で震度3以上を観測する地震などの目立った地震活動はありませんでした。

【防災メモ】南海トラフ地震の2つの発生確率

令和7年9月26日、政府の地震調査研究推進本部から「南海トラフの地震活動の長期評価（第二版一部改訂）」として、南海トラフ地震の発生確率が新たに公表されました。皆さんご存じのとおり、南海トラフ沿いでは大規模な地震の発生が危惧されており、その発生確率は今年1月1日時点で今後30年以内に「80%程度」（以下、30年確率値）とされていたところですが、今回の改訂では「60%から90%程度以上」と「20%から50%」という2つの発生確率が示されています。では、私たちはこの2つの確率をどのように受

け止めればよいのでしょうか？

まず押さえておきたいのは、この2つの確率値は「南海トラフ沿いのプレート境界で発生する、マグニチュード8～9級の巨大地震」という同じ現象を対象としながらも、発生確率の計算手法が違うことにより生じているということです。そして、どちらか1つに確率値を決めずに「2つ」公表するということは、科学的知見が一枚岩ではなく複数の見方があり得るということを包み隠さず伝えていると言えます。

そのような意図がある中で私たちがとるべきは、「どちらを信じるか」ではなく「どちらになってもいいように準備をしておく」という姿勢です。2つの30年確率値があった場合「60%から90%程度以上」が最悪の事態として想定されるわけですから、南海トラフ地震が明日起きても不思議ではないという心構えを変える必要はなく、家具の転倒防止や非常持ち出し袋の点検、水や食料の備蓄等を引き続き続けていくことが大切です。

- ・南海トラフの地震活動の長期評価（第二版一部改訂）（地震調査研究推進本部）
https://www.jishin.go.jp/evaluation/long_term_evaluation/subduction_fault/#nankai_t
- ・南海トラフ地震に関連する情報
<https://www.data.jma.go.jp/eeew/data/nteq/index.html>
- ・南海トラフ地震について
<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/jishin/nteq/index.html>
- ・南海トラフ地震に関連する情報について
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/jishin/nteq/info_criterion.html

表1 南海トラフ地震の地震発生確率について

M8～9の地震	本文（主文）に記載した計算方法	用いたデータ	ランク (2025/1/1時点の 今後30年以内の発生確率)
第二版 (2025/1/1時点)	時間予測モデル	・隆起量データ ・地震発生履歴	Ⅲランク (80%程度)
第二版 一部改訂 (2025/1/1時点)	すべり量依存 BPTモデル	・隆起量データ ・地震発生履歴	Ⅲランク (60%～90%程度以上)
	BPTモデル	・地震発生履歴	Ⅲランク (20%～50%)

- ・「南海トラフの地震活動の長期評価（第二版一部改訂）の概要資料」を一部改変
- ・今回の改訂では2種類の計算手法（すべり量依存BPTモデル、BPTモデル）より2つの発生確率が算出されている。
- ・ランクとは地震調査研究推進本部が設定した地震発生リスクで、海溝型地震の場合はⅩランク（不明）、Ⅰランク（低い）、Ⅱランク（やや高い）、Ⅲランク（高い）の4つがある。南海トラフ地震の場合はどちらのモデルでもⅢランク（高い）となっている。

資料についての問い合わせ先：宇都宮地方気象台 電話 028-635-7260